

社会

➔ 4年生 | 「わたしたちの県」

目的意識をもつ単元の導入と 自分の言葉でまとめていくワークシート

1. はじめに

筆者は、単元導入の「つかむ」の難しさを日々感じ(特に「わたしたちの市」や「わたしたちの県」の単元)、同僚と一緒に考えてきた。また、調べた内容と自分の言葉によるまとめが一目でわかるようにならないかとも考えてきた。

本稿では、単元導入の工夫と1時間で調べてまとめる方法に悩みのある方に、筆者の実践を紹介する。

2. 〈導入〉県の観光とイベントを素材にする

本実践は県の観光や2020東京オリンピック・パラリンピック(以下オリパラ)を素材として取り入れた。観光にスポットを当て、観光大使や旅行会社のような役割を設定することで、相手意識が生まれる。これまでの経験から、児童が相手意識をもつと意欲が向上し、質の高い学習活動を進めていくのを知っていた。オリパラはまさにタイムリーで、開催地でもあり、児童は関心をもっている。これらを取り入れることで、目的意識をもって学習を進められると考えた。

本時(単元の導入)は「千葉県の特徴や魅力について興味をもつことができる」を目標に展開した。概要は、「①オリパラクイズ、②インタビュー視聴、③めあての確認、④県の特徴や魅力を考える、⑤発表する、⑥単元の学習問題を作る」である。

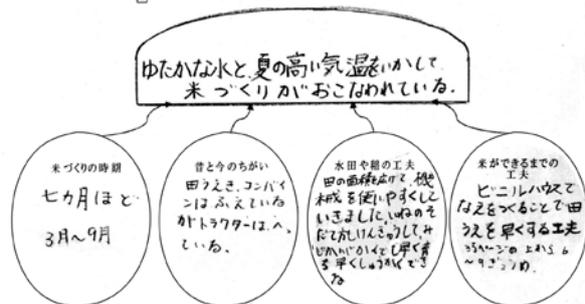
オリパラクイズ(競技名・開催地・参加人数等)をテンポよく進め、千葉県とオリパラが関係していることや、国内外から多く人が訪れることを知ることができた。次に他県の児童からのインタビュー動画(オリパラへの興味、千葉への質問)を視聴し、千葉県を訪れる際に事前を知っておきたいことを確認した。

これが本時のめあてとなり、児童は地図帳や掲示物の千葉市地図から調べたり、自身が知っていることをノートにまとめたりした。伝え方についても考える児童がいた。発表は、筆者が想定していた「交通」「気候」「観光」「産業」「土地」「都市」の6分野の考え方が出てきた。これらを基に単元の学習問題と学習計画をまとめた。

3. 〈ワークシート〉調べてまとめる思考ツール

単元の「調べる」では、1時間で調べてまとめるために、思考ツールを活用した。例えば、県内の産業(本稿は米づくり)では、クラゲチャートの足部分に調べたことを記入する。これらを基に工夫や努力を話し合っ、最後に自分の言葉でまとめていく流れとした。調べることの負担感を軽減し、内容を整理するうえで大いに有効である。

【調べる・まとめる】
① クラゲチャートの足に、米づくりの工夫を書きましょう。
② クラゲチャートの頭に、今の米づくりについてまとめよう。



▲クラゲチャートの例

4. おわりに

観光案内やオリパラを中軸に目的意識をもつことで、意欲を継続させて学習を進めることができた。また、思考ツールを活用することで調べたことを一目で捉えられ、他県の児童へ千葉県の魅力を伝えるための作品作りに大変有効であった。